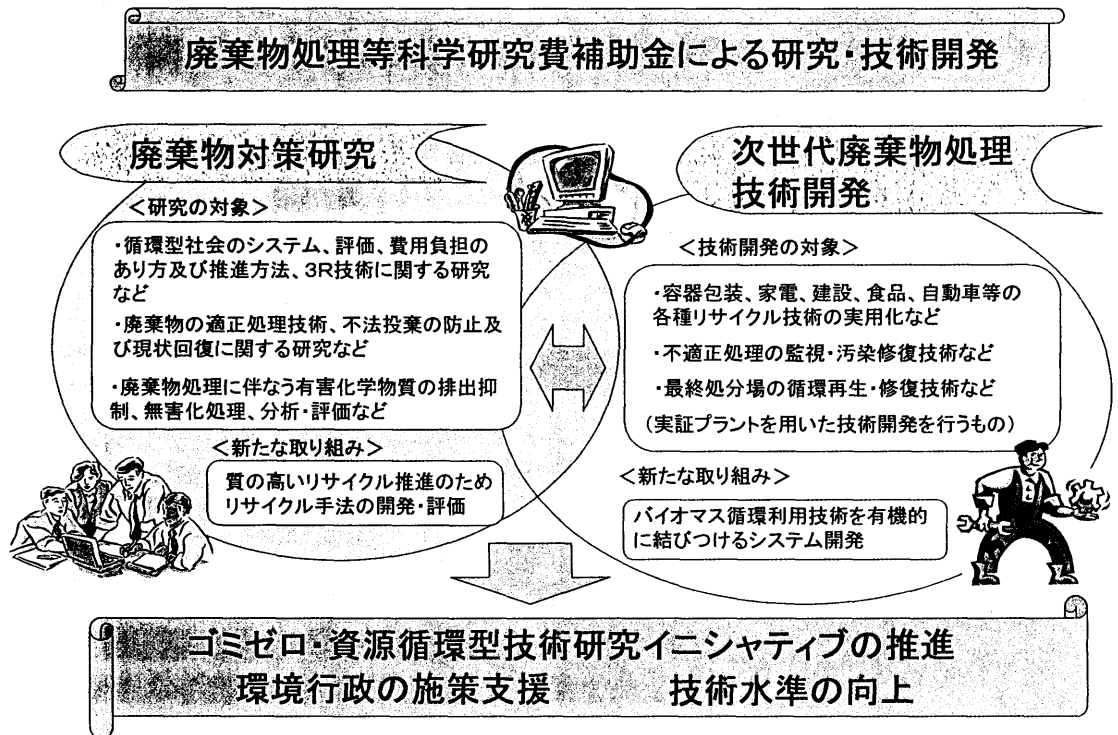


シンポジウム

廃棄物処理等科学研究費補助金による研究・技術開発

森谷 賢 (環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長)



廃棄物処理等科学研究費補助金 概要 1 / 2

研究部門

大学研究室等で実施される基礎及び応用研究

事業名称	廃棄物処理対策研究
対象研究	廃棄物処理や循環型社会形成等の推進に関する研究であって、学術的・社会的必要性が高く、独創的なもの
対象者	研究者（大学、独立行政法人、民間企業、公益法人、国及び地方公共団体など国内の研究機関に所属する者）
対象科目	研究を実施するために必要な調査研究費、旅費、委託費等
公募方法	官報登載、環境省ホームページ掲載により周知
公募時期	年度当初、年1回
補助率	100%
研究期間	3年以内（ただし採択評価は年度毎に行う）
採択方法	外部有識者からなる審査委員会による書類、ヒアリング審査を経て選定
公募分野 （平成14年度）	<ul style="list-style-type: none"> ○有害化学物質対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有害化学物質の排出削減・処理・分析・評価 ・ 最終処分場における有害化学物質の挙動 ○適正処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正処理方法 ・ 不法投棄の防止・原状回復 ・ 有害、感染性、処理困難廃棄物の処理 ・ し尿、浄化槽の高度処理・維持管理 ○循環型社会構築技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会システム、評価、費用負担のあり方、推進方法 ・ 排出抑制・再生利用 ・ 最終処分場の延命化・再生化 ・ 浄化槽汚泥の再生利用

廃棄物処理等科学研究費補助金 概要 2 / 2

技術開発部門

民間等が実施する技術の実証・実用化

事業名称	次世代廃棄物処理技術基盤整備事業
対象技術	廃棄物処理に関する技術で、実現可能性、汎用性、経済効率性が見込まれる技術開発
対象者	民間企業、地方公共団体、大学、法人
対象科目	技術開発するために係る設備費、材料費等
公募方法	官報登載、環境省ホームページ掲載により周知
公募時期	年度当初、年1回
補助率	1 / 2
研究期間	1年
採択方法	外部有識者からなる審査委員会による書類、ヒアリング審査を経て選定
公募分野 (平成14年度)	<p>○適正処理技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ばいじん、焼却灰処理 ・ 最終処分場の再生・修復 ・ 不法投棄監視・修復 <p>○リサイクル技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイオマス、容器包装、廃家電、廃自動車、建設系廃棄物のリサイクル技術 <p>○循環型設計・生産技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リデュース・リユース・リサイクルに係る循環利用設計・建設・生産の技術

廃棄物処理等科学研究費補助金 交付先・期待される効果

平成14年度例

研究	分類	補助交付先名	研究名	研究内容	期待される効果
	独立 行政 法人	国立環境研究所 主任研究員 鈴木 茂	不法投棄廃棄物に含まれる 化学物質の包括的計測手法の 開発に関する研究	不法投棄廃棄物に含まれる化学物質 を短時間で掌握する分析システムの 開発研究	不法投棄場所の 早期現状回復
	国立 大学	北海道大学 工学部教授 古市 徹	焼却灰中のダイオキシン類を 対象とした微生物分解技術の 開発に関する研究	バイオテクノロジーを用いたダイオ キシン類処理技術の開発研究	ダイオキシン類 対策
	私立 大学	慶応大学 経済学部教授 山口光恒	拡大生産者責任(EPR)に関す る費用便益・リスク便益解析	リサイクル政策における EPR の有 効性(費用、減量効果、環境負荷等) を検証する研究	循環型社会構築 の推進

をはじめ41件に交付(交付総額 656,770千円)

技術 開発	分類	補助交付先名	技術名	技術開発内容	期待される効果
	民間	ヤマサ醤油	電磁誘導加熱水蒸気乾燥によ る食品廃棄物の飼料化へのリ サイクル技術の開発	未利用の醤油粕等高植物性蛋白質の 飼料化に向け、脱臭性、殺菌性、非 酸化性、防爆性の高い乾燥機開発と 飼料化の実証	バイオマスリサ イクルの推進
民間	石川島播磨重工	粉体塗料用樹脂(再生ペットボ トル)の低コスト粉砕技術の開 発	ペットボトルから繊維を作る以外の 用途を開発。粉砕し塗料の一成分と しての低コスト利用を開発	容器包装リサイ クルの推進	

をはじめ15件に交付(交付総額 296,280千円)